

別表1 あいの里共同溝設備保守点検項目

No.1

区分	点検項目		設備概要
	1カ月点検	6カ月点検	
1.引込及び 幹線設備	1.引込線に異常はないか	1.端子の増締め	分電盤(20回路) 1面 指示計器類 84個
	2.分電盤の外観に破損、損傷はないか	2.絶縁抵抗測定	
	3.電源確認ランプの表示は良いか	3.ELB動作試験	
	4.盤内ELB,NFBから異音、悪臭はないか	4.保温ヒーター動作試験	
	5.端子盤に加熱、変色はないか		
	6.盤内に雨水等の浸入はないか		
2.電灯及び コンセント設備	1.照明器具の破損、不点灯はないか	1.絶縁抵抗測定	FL-20w 170台 FL-40w 79台 誘導灯 17台 計266台 面積:3,000㎡ コンセント 15台 スイッチ 33台
	2.照明器具に異音、異臭はないか	2.電圧確認	
	3.照明器具に雨水等の浸入はないか	3.充電部の露出はないか	
	4.非常照明のバッテリー点灯切替の確認	4.端子の過熱変色はないか	
		5.コンセント、プレートに破損等はないか	
3.動力設備	1.各動力盤の外観点検	1.各絶縁抵抗測定	排風機動力盤 3面 排水ポンプ動力盤 11面 手元開閉器盤 3面 排風機遠方操作盤 4面 計21面
	2.電流値、圧力計の確認	2.各電流電圧確認	
	3.手動、自動切換運転の確認	3.端子の緩み増締め	
	4.排風機、排水ポンプの動作確認	4.排風機、排水ポンプの動作確認	
	5.スイッチ類は正常な位置になっているか	5.スイッチ類は正常な位置になっているか	
4.排風機	1.排風機の外観状況の確認	1.排風機の基礎固定部の緩み確認	排風機#3 1.5kw×2台 排風機#2 0.75kw×4台 計6台
	2.排風機の電動機の発熱異常の有無	2.防振材の破損等の有無	
	3.排風機の軸受異音、振動の有無	3.排風機のVベルト緩み、磨耗、損傷の有無	
		4.排風機のVプーリー磨耗、損傷の有無	
		5.排風機の芯出しの良否	
		6.排風機の羽根車汚れ、変形、腐食	
5.排水ポンプ	1.排水ポンプ電極の外観に異常ないか	1.ケーブル損傷の有無	排水ポンプ 50φ×22台
	2.ポンプ配管・バルブ・チャッキ類は正常か	2.ポンプ配管・バルブ・チャッキ類は正常か	
6.接地設備	1.端子盤の点検	1.接地測定	接地端子盤(3極) 11面
		2.端子に緩みはないか	
		3.接地線に断線はないか	
7.インターホン設備	1.親機、子機、収納箱、スピーカーの外観に破損はないか	1.親機、子機、収納箱、スピーカー総合動作試験	親機 1台 子機 15台 スピーカー 24台
		2.音量状態の確認	
8.酸素警報設備	1.検出器に破損はないか	年1回総合点検を行う。詳細は別表3	酸素警報設備 15台 酸素センサー 15個
	2.酸素濃度19.5%以下で、排風機が運転するか		
	3.酸素濃度18%以下で、ハットライト点灯するか		
	4.センサー箱内部のヒーター動作確認		

区 分	点 検 項 目		設備概要
	1カ月点検	6カ月点検	
9.監視設備 (共同溝内)	1.監視盤の外観に破損等はないか	1.端子の増締め	監視盤 1面 監視中継盤 1面 計2面
	2.スイッチ類は正常な位置になっているか	2.絶縁抵抗測定	
	3.監視盤より排風機の運転確認	3.盤内に異音、異臭等の異常はないか	
		4.端子類の加熱、変色はないか	
		5.スイッチ類は正常な位置になっているか	
		6.監視盤のポンプ・排風機運転、故障、満水表示の確認	
10. ドアヒーター 設備	1.各盤の外観点検	1.通電確認	ドアヒーター盤 5面 (2回路 4面、3回路 1面)
	2.適正な温度設定か(12~3月のみ)	2.各絶縁抵抗測定	
11. 消火器		1.消火器が適正に設置されているか	消火器10型 40本
		2.外観、腐食、損傷の有無	
12.構造物等	1.漏水等の異常箇所はないか	1.ドア建具、屋外排気塔、タタキに	面積:3,000㎡ 出入口:5箇所
		損傷ないか	
13.中央監視装置 (北区土木センター 及び共同溝内)	1.中央監視装置の外観に異常はないか	年1回総合点検を行う。詳細は別表2	中央監視装置 1面 SRU 1面
	2.タッチパネル運転・故障履歴の確認		

別表2 中央監視装置総合点検、セントラル周辺機器点検項目（1年点検）

アズビル(株)製、型式：savic-netEV model10

No.3

下表並びにメーカーの点検基準・判定基準に基づき点検し、その良否を判定すること。

項 目	点 検 項 目	
北 区 土 木 セ ン タ ー	1. 中央処理装置(MCU) (ANN含む)	1. データファイルのバックアップ作成 2. 自動シャットダウン機能の確認 3. 各部のクリーンアップ 4. 自己診断プログラムによるハードウェア診断 5. ハードディスクドライブの機能確認 6. インジケータ表示確認 7. ケーブル、コネクター類の装着状態の確認 8. 冷却ファンの動作確認／交換 9. ハードウェア構成の確認
	2. 中央処理装置(MCU) 分電ユニット (PDU)	1. 受電電圧の測定 2. 電源、接地端子等の締付確認 3. 各部のクリーンアップ 4. 受電インジケータの確認 5. ケーブル、コネクター類の装着状態の確認
	3. 中央処理装置(MCU) 外部入出力ユニット (IOU)	1. 電源電圧、リップルの測定、調整 2. 各部のクリーンアップ 3. 各端子の締付確認 4. ケーブル、コネクター類の装着状態の確認
	4. 無停電電源装置 (UPS)	1. バックアップ動作の確認 2. 電源断検出機能の確認 3. UPS出力電圧測定 4. UPS外観点検 5. UPSインジケータ確認
	5. 中央処理装置(MCU) システム機能 (ANN含む)	1. 基本機能の確認 2. システム構成機器管理機能の確認 3. 各部入出力ユニット(IOU)の移報、ブザー停止機能の確認 4. OS各設定内容の確認 5. システム状態の確認 (1)チェックプログラムによる診断 (2)システムのイベントログの確認、保存 (3)データベース動作状態の確認 (4)エラーログに保存 6. 管理点数の確認 7. MCUソフトウェアバージョンの確認
	6. タッチパネル(MMU)	1. タッチパネル動作確認 2. 設定要素の確認 (1)色ずれ、色ムラの確認 (2)フォーカス確認 (3)コントラスト、画面サイズ、表示位置の確認、調整 3. 外観のクリーンアップ

項目		点検項目
北区 土木 センター	7. 親局用通信装置 (GLA60A)	1. 受電電圧の測定 2. 電源、接地端子等の締付確認 3. 基本機能点検 (ICメモ리카ードへの書き込み更新、LED表示状態確認、エラー有無の確認)
	8. 入出力ポイント(※) (デジタルポイント)	1. SRU接続中の入力及び出力の模擬動作試験
	9. 移報用伝送装置(ZM)	1. 任意代表警報発報による警報通報機能の模擬動作試験
共同 溝内	10. 子局用通信装置(SRU) (BPS含む)	1. 受電電圧の測定
		2. 電源、接地端子等の締付確認
		3. 各部のクリーンアップ
		4. 受電インジケータの確認
		5. ケーブル、コネクタ類の装着状態の確認
		6. SAVICとの通信
		7. 無停電電源装置の電源電圧測定(BPS)

※入出力ポイント

項目	名称	用途	ポイントタイプ
1.3.01.01.1	移報 リモーターミナル異常	移報	COP
1.3.01.01.2	移報 ヒット満水警報	移報	COP
1.3.01.02.1	移報 酸欠警報	移報	COP
1.3.01.02.2	移報 排風機・ポンプ故障	移報	COP
1.3.02.1	排風機-1 操作	発停	CCP
1.3.02.4	排風機-1 状態	状態	SOP
1.3.02.5	排風機-1 故障	警報	AOP
1.3.02.2	排風機-2 操作	発停	CCP
1.3.02.6	排風機-2 状態	状態	SOP
1.3.02.7	排風機-2 故障	警報	AOP
1.3.02.3	排風機-3 操作	発停	CCP
1.3.02.8	排風機-3 状態	状態	SOP
1.3.02.9	排風機-3 故障	警報	AOP
1.3.02.10	Aブロック酸欠	警報	AOP
1.3.02.11	Bブロック酸欠	警報	AOP
1.3.02.12	Cブロック酸欠	警報	AOP
1.3.02.13	Aブロック ポンプ故障	警報	AOP
1.3.02.14	Bブロック ポンプ故障	警報	AOP
1.3.02.15	Cブロック ポンプ故障	警報	AOP
1.3.02.16	Aブロック ポンプ満水	警報	AOP
1.3.02.17	Bブロック ポンプ満水	警報	AOP
1.3.02.18	Cブロック ポンプ満水	警報	AOP
1.3.02.19	リモート 異常	警報	AOP

別表3 酸素警報設備総合点検項目（1年点検）

理研計器(株)製、型式:OX-5002

No.5

下表並びにメーカーの点検基準・判定基準に基づき点検し、その良否を判定すること。

項 目	点 検 項 目
1.警報動作テスト	警報ランプ点灯、接点出力よりの警報動作。
2.指示計の指針	検知部周囲の酸素を確認し、21%にあっているか。
3. 実ガス校正	酸素濃度10.5%の校正ガスを検知部に押入し、指示計が約10%に指示するよう調整する。
4. 警報設定値 の確認	指示計にて18%及び16%で警報を発するか。
5. 応答速度	酸素濃度10.5%の校正ガスを検知部に押入し、19.5%及び18%の警報が20秒以内にでること。
6. 検知部点検	検知部のガス吸入にミストダスト、水滴などが付着していないか。
7.センサー交換	検知部内部のセンサー交換及び校正。
8.電気回路	ケーブル接続端子の緩み、リーク等の検査。
9.総合連動動作試験	現地において酸素警報動作により、排風機運転、パトライト点灯、中央監視へ出力しているか連動動作の機能確認を行う。